

令和3年度 学生による地域フィールドワーク研究助成 中間報告書

大学等名：富山県立大学

代表学生：青木 明日香

指導教員：呉 修一

<p>研究題目 (応募部門)</p>	<p>天然記念物オニバスの復活・地域振興利用に向けた工学的フィールド調査研究</p>
<p>研究概要</p>	<p>オニバスは、スイレン科に属し、池などの淡水中に種子から生える水草である。国指定の天然記念物ではあるが、氷見市の指定地での自生は長いあいだ確認されておらず、絶滅も危惧されている。本研究では、氷見市の十二町潟を対象に、オニバスの生息箇所を氷見市役所、ひみラボ水族館と共同で調査する。</p>
<p>これまでの活動状況と今後の活動予定 (300字程度)</p>	<p>本研究では、オニバスの生息箇所を対象に水質調査および流況の数値解析を実施する。具体的には、従来まで調査されていない、1) 汚泥などの底質材料、2) 出水時の水深・流速の時空間分布、3) 水質の調査、など河川工学の観点から実施する。現在は数値解析の実装中であり、十二町潟を対象にした流況シミュレーションがセットアップされた。今後はオニバスの生息箇所と流速の関係を明らかにする。また、8月中に重点的な水質調査が実施される予定である。最後に、氷見市の天然記念物のイタセンパラとセットでの水辺探索ツアーなど、地域振興策の実施が可能なかを検討する。</p>
<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響で、当初予定と変更がある場合は変更点を記述ください。</p>	



オニバスの調査の様子



繁茂するオニバスの様子



十二町潟を対象とした数値計算の様子